

「とんぼの未来・北の里づくり」第1回事例研究会 議事録要旨

日時：平成29年9月14日（木）14:30～17:00

場所：第二道通ビル2階 駅前ビジネススペース「2K」

出席者：別紙のとおり。

<議事概要>

1. 開会挨拶

（北海道農政部農村振興局農村設計課 市川活性化担当課長より挨拶）

「とんぼの未来・北の里づくり」の活動は、全道で855組織、4万人以上2700団体が参加している。おそらく北海道の事業で、これだけ大きいものは、他に例はないと思う。今までも、事例を毎年収集しているが整理されていない。活動されている人も非常に多く、予算も100億円以上使われており大事な事業である。社会情勢が混沌として、農家数が減少している中で、この事業の必要性を理解して頂くには全国民、道民に、この仕事がどのように役に立っているかを理解してもらい、参加している人たちにも、全道的にどんな事例があるのかを知ってもらいたい。

2. 自己紹介

資料の会員一覧により自己紹介を実施。

（北海道農政部農村振興局農村設計課 坪井主幹）

- ・当交付金を担当して3年目に入るが、まだまだ解らないことも多く、この会でも勉強して、皆で検討しながらやっていきたい。
- ・多面交付金の活動の幅は非常に広くて、深い。全道でどのようなやり方で取り組んでいるのか、できるだけ多くの事例を集め、様々なアイテムを使って紹介することで、新たな活動の起爆剤になり、交付金が一層有効に活用されるよう、この研究会が牽引したいと考える。

（北海道農政部農村振興局農村設計課 高瀬主査）

- ・本交付金は自由度が高い制度であり、さらに平成19年度以降、事務の簡素化が進められてきたが、一方では内地で不祥事も発生し、説明責任とのバランスが必要。
- ・共同活動も、営農活動に影響しない範囲で無理なく実施するものと、本対策の効果を大きくアピールできるようなものとのバランスが必要。
- ・本研究会で様々な事例を収集し、様々な地域の状況に応じた更なる活動の充実・発展について、皆さんと忌憚りの無い意見交換を行いたい。

(水土里ネット北海道技術部地域支援課 田村主幹)

- ・取組内容も一定のレベルまで達した感はあるが、本道における地域の課題解決に向けては制度の更なる充実が必要と考えている。
- ・本研究会の取組を通じて忌憚の無い意見を出して頂き、皆さんと検討をして今まで以上に本道に根ざしたより良い制度としていきたい。

(水土里ネット北海道技術部地域支援課 佐藤主査)

- ・会員の皆様と本研究会を一緒に盛り上げて、本道の活動に参加している人達が、さらなる活動の発展を図れる情報を収集して、ここから発信していきたい。

(岩見沢南地域資源保全協力会 峯会長)

※岩見沢市で平成19年度から1,080haほどの地域で本対策に取り組んでいる。

- ・田んぼまわりの草刈りなど、必要性のあるものから順次取り組んできた。
- ・今年の3月の総会では田んぼダムの取組を進めることを決定した。
- ・時間ごとの管理など検討すべきことはあるが、ICTを取り入れて水田の水の高さを、スマートフォンで確認した田んぼダムの取組を、平成31年度本格実施を目指していきたい。

(名寄東資源保全活動組織 鷺見代表)

※名寄市で平成20年度から180haほどの地域で本対策に取り組んでいる。

- ・道営事業で10年ほど基盤整備を進めてきて、ようやく一段落したところ。
- ・基盤整備の実施により、排水性が高まったことにより、排水がスムーズ過ぎて低地に水がたまってしまう現象が起きている。
- ・地域の排水対策は、田んぼダムの取組により実施していきたい。
- ・畦畔へのクローバー植栽による、きれいな畦づくりなども取り組んでいる。

(鷹栖町地域農業推進会議中央支部 佐竹会長)

※鷹栖町で平成19年度から760haほどの地域で本対策に取り組んでいる。

- ・本来はこのような対策が無くても地域がやるべきことをやるのが基本と考えるが、手助けが必要な状況である。
- ・農家経営は既に引き継いでいるが、農地や施設などをいかに次世代に引き継ぐか、どのように引き継ぐかを考えることが私の使命だと思っている。
- ・本会は若手が多いが、私はそのような視点で参加したい。
- ・活動は田んぼダムなどに取り組んでいる。

(津別広域協定運営委員会 河本構成員)

※津別町で平成19年度から5,540haほどの全町広域組織で本対策に取り組んでいる。

- ・地域では12営農集団を中心に、道路整備・清掃などに取り組んでいる。
- ・個人的には食育に関する活動や、インターネット放送でMCなどの活動も行っている。

(上伏古環境保全組合 鳥本副組合長)

※芽室町で平成20年度から740haほどの地域で本対策に取り組んでいる。

- ・24戸の農家で明渠排水の維持管理、防風林や幹線道路周りなどの草刈りを実施している。
- ・農道10kmの草刈りはモアなどの機械を導入して、省力化に努めているところ。
- ・共同の形態での活動は月に1～2回実施しているが、活動形態は個々のものが多いのが実態であり、1：1：1の考えに基づく日報整理などは難しいと考えている。
- ・営農は畑作4品を中心に、ニンニクにも取り組んでいる。

(岩見沢市農政部農業基盤整備課 山崎主事)

- ・主担当は国営・道営・団体営の農業農村整備事業を担当している。本部署は5年目で4年間多面的機能支払交付金に携わってきた。
- ・岩見沢市は約2万haの農地があり、約9割の1万7千haが本交付金に参加している。
- ・農家戸数の減少など、取り巻く情勢は厳しいが、本研究会で様々な地域での本交付金の取組を学んで、市内での取組の参考にしたい。

(北海土地改良区 総務課 高道主幹)

- ・本部は岩見沢市だが、10の市町村にまたがり、平成18年度のモデル事業から進めてきた。当時は84組織を立ち上げ、現在は76組織。
- ・改良区に事務委託はしないで、組織の人達に自立してもらえるよう指導してきた結果、今ではすべての組織が事務処理を行えている。
- ・本研究会で様々な地域での本交付金の取組を学んで、地元組織の活性化に結び付けたい。

(洞爺湖町農業振興課 村上主査)

- ・洞爺湖町では4組織で約1,600haの農地で88名が取り組んでいる。
- ・町内では月1回の代表者会議で4組織が情報共有しながら、より効果的かつ効率的に交付金を執行してきた。
- ・管外研修を実施した組織もあり、このような情報も代表者会議で共有してきた。
- ・本研究会で得た知識は、同じく代表者会議で本町全体に還元していきたい。

(北見市農林水産部農林整備課 江本係長)

- ・北見市では平成19年度より取り組みを開始し、現在では22組織で実施している。
- ・各組織は様々な事務体制を敷いているが、北見市では連絡協議会を開催し、意識を共有するとともに、統一した様式を示しながら事務改善などにも取り組んできた。
- ・平成28年の豪雨災害を体験し、本交付金での迅速な対応を実感できた。
- ・本研究会で得た知識は、地元に戻元していきたい。

3. 議題

(1) 事例研究会設置の趣旨などについて

(北海道 坪井主幹より説明)

- ・資料 1P の「とんぼの未来・北の里づくり」事例研究会（仮称）設置要領（案）により、会の趣旨と活動内容を説明し、理解していただいた上で「平成 29 年 12 月 14 日」付けで要領を制定。

（佐竹会長）

- ・先述のとおり、次世代に引き継ぐ意識が必要と考える。今後 30 年を見据えた視点で、食料をどうするか、今後の維持管理をどうするかなどを検討していく必要があると考える。

（一同）

- ・異議なし。

（２）本年度の行動計画等について

①多面的機能支払の取組状況の紹介

②平成 29 年度行動計画（案）

③道外視察研修

（北海道 高瀬主査より説明）

- ・資料 2P～24P の説明後、意見交換を実施。

【以下、意見交換内容】

（田村主幹）

- ・道外視察研修の参加可能状況の聞き取りをさせて頂いたとおり、現時点で鳥本副組合長・高道主幹・佐竹会長・河本さんの参加は困難。本日欠席の会員もいるため、後日調整して連絡するので打診があった場合は協力して頂きたい。

④全道事例発表会

（水土里ネット北海道 田村主幹より説明）

- ・資料 25P～28P の説明後、意見交換を実施。

【以下、意見交換内容】

（田村主幹）

- ・福祉との連携について事例発表を行って頂くことはできないか。

（佐竹会長）

- ・全道事例発表会での事例発表するにあたり、道内の活動組織は農福連携についてどのくらい賛同しているのか。現状では福祉との連携はあるが、作業を行う場合は障害者 1 人に対して、危険防止のために健常者 1 人若しくは 2 人が付いて作業している。農福連携の実態は非常に難しいことから、発表には至らないと考える。

（田村主幹）

- ・農福連携を実施したいと考えている活動組織からの問い合わせはある。実態を知ってもらう観点からの発信でも良いと考える。

(坪井主幹)

- ・農福連携活動を実施するためのポイントや、実態を個人的には聞きたいと感じた。本日欠席の会員もいるため、後日調整して連絡するので打診があった場合は協力して頂きたい。

(迫田主査)

- ・農福連携について、何が問題なのか、どうしてもできないのか知りたい。どこの地域でも農福連携は課題だと思う。本町においても福祉を支える母体は出来てきているが、実際に障害者が働く場所がない。そうなるとう農業・林業で働くことも検討材料になるので、個人的にも活動組織としても今後のために実態を聞いてみたい。

⑤本道に根ざした多面的機能支払交付金の検討（案）

(水土里ネット北海道 田村主幹より説明)

- ・資料 29P～34P の説明。

4. 全体意見交換

【以下、全体意見交換内容】

(今野主事)

- ・事例研究会の運営方法が決まっているのであれば教えて頂きたい。

(田村主幹)

- ・委員会であれば委員長を選出して進めるべきではあるが、本研究会では事務局の提案に会員で協議して進めていくスタンスで考えている。また会議等については、農繁期を避けて開催していきたい意向であるが、平成 31 年の制度を考えると、検討する時期が遅くならないように考慮したい。

(佐竹会長)

- ・鹿などの駆除について、周囲の市町村と連携がとれていないと感じるので、連携の組み方、猟友会の協力による罠設置の勉強会等の実施が必要と考える。

(鳥本副組合長)

- ・鹿柵の設置活動による取組が不明な部分が色々ある。また、個人所有地、国有地、企業敷地等の設置できない箇所からの侵入が多くあるので、これらの垣根を無くす活動を発信することも必要である。

(田村主幹)

- ・事務局も同じ発想は持っている。今後の情報収集のために地域の意見を出して頂きこの会で話し合いを行っていききたい。

(鷺見代表)

- ・排水路の泥上げ活動についても同様であるが、下流河川の泥上げが実施されていないことで、上流の泥上げ活動を実施しても意味がない場合もある。このようなことを改善するのは難しいとは考えるが、改善をしていく取組も必要である。

(迫田主査)

- ・刈払機による草刈作業の安全マニュアルの作成も必要であると考えている。

(佐竹会長)

- ・草刈を行う業者は労働者に研修会を開催して、修了証を発行している。

(田村主幹)

- ・雑木処理でチェーンソー等を使用した場合の事故も発生しているので必要だと考える。意見を出して頂き課題解決に取り組んでいきたい。

(鳥本副組合長)

- ・農福連携は加工業などの6次産業化に取り組まなければ難しいと考える。農作業で連携するのは障害者のサポート面でも厳しいと感じている。

(迫田主査)

- ・芽室町や津別町は畑作が中心であるが、道南の洞爺湖町では施設園芸が盛んである。もしかしたら施設園芸などで農福連携ができるのかもしれないと個人的に感じる。本町では農福観環（農業・福祉・観光・環境）に、多面的機能支払の活動も含め、地域の農業と絡める活動もあるのではないかと考える。

(鳥本副組合長)

- ・製造業で福祉と連携を図り取組んでいる実態もあるが、接点がないため勉強する機会も無い。他の業種の取組みも参考にして、どのように農業に取り入れるか検討もしていきたいので異業種への発信も必要であると考えている。

(田村主幹)

- ・この事例研究会は、理想や理論を出し合って制度を良くしていこうと考える。今後色々と意見を出して頂きたい。

(坪井主幹)

- ・農福連携は多面的機能支払交付金の活動だけで解決することではない。農業体験等を通じた活動で、われわれもPRができると思う。そのためには、成功事例・失敗事例・苦勞事例を発信できたらいいと考える。また、成熟できなかった取組等もあったが、平成31年度の制度に向け情報収集して発信していきたいと考える。

(峯会長)

- ・今年度の行動計画で1月に視察研修があるが、都合により参加できないメンバーもいるので、できれば平成30年度の夏から秋にかけて日程調整を願いたい。今回は東北・北陸地方で決定したが、関東でも様々な活動が実践されているので、そのような流れで行って欲しい。また、北関東では改良区が遊休農地発生防止の取組みも実施しているので、今後の視察先の選定の際に参考にして頂きたい。

(鷺見代表)

- ・我々が管理している排水路は、ゴルフ場の排水など農業以外の排水も雨が降れば常に受けており、このような状況を考慮すると、交付金を減らす要素は全くない。

- ・施設保全の活動が大事だということを自ら理解し、また理解を得ながら取り組んでいかなければならないと考える。
- ・また、土地改良や施設の長寿命化の取組は永続的に必要な取組であることを認識する必要がある。

5. 閉会挨拶

(水土里ネット北海道 技術部 地域支援課 橋本課長より挨拶)

本日より、「とんぼの未来・北の里づくり」事例研究会が発足したが、年明け以降の様々な場面において、会員の皆様に協力をして頂くこととなり、ご負担が増えると思われるが、活動されている方の生の声を、内外を含めて発信していくことが重要と考えるので、お願いを申し上げて、閉会の挨拶とさせて頂く。

以上